

平成 24 年 9 月 20 日

秩父市議会議長 小櫃市郎 様

議会運営委員長 新井 豪

議会運営委員会行政視察報告書

- 1 期 日 平成 24 年 8 月 9 日（木）～10 日（金）
- 2 視 察 先 三重県鳥羽市
- 3 参 加 者 委員長 新井 豪 副委員長 福井 貴代
委 員 新井重一郎 委 員 五野上茂次
委 員 江田 治雄 委 員 斎藤 捷栄
委 員 浅海 忠 委 員 荒船 功
議 長 小櫃 市郎 副議長 金田 安生

4 視察目的

「新たな議会 I T 化の推進」

○ 市の概要

本土は志摩半島に属し、西を伊勢市、南を志摩市に接する外は海岸線である。市域全体が伊勢志摩国立公園に指定されている。海岸はリアス式海岸で、温暖な気候に恵まれる。

鳥羽港は古代には泊浦（とまりのうら）と呼ばれ、水深は深く波が穏やかな天然の良港として知られていた。このため、「泊浦御厨」として伊勢神宮内宮の支配下におかれた。室町時代から戦国時代にかけての志摩国は橘氏を盟主とする「志摩十三地頭」と称される海賊衆が各地区を治めていた。16 世紀後半に「九鬼水軍」で知られる、地頭の九鬼嘉隆が突然反乱を起こし、一度は志摩国を追放されるが織田信長に仕えたことで再び志摩国を襲い、平定する。九鬼は鳥羽を本拠地とし、鳥羽城を築城した。

近世以降、志摩国の政治・経済・文化の中心地、鳥羽藩の城下町として発展し、明治以降も志摩地方の行政・経済の中心として栄えた。

現在、市の人口は約 2 万人、面積は約 1 0 8 k m²。牡蠣・真珠の養殖業が有名。伊勢海老、鮑、海苔などの漁業が盛んであり、畜産では加茂牛の飼育が行われている。観光業も盛んである。

○ 事業の概要

鳥羽市議会はこれまで、地方議会では全国初の twitter^[1]（ツイッター）導入や、USTREAM^[2]（ユーストリーム）によるほぼ全て会議のインターネット動画配信、Google（グーグル）カレンダー^[3]での議会日程のお知らせ等、「議会の見える化」について I T の活用を積極的に推進。また、議会内における議員の作業環境の改善に焦点を絞り、民間事業者のクラウド^[4]型

ストレージサービス^[5]を取り入れ、全国でも例のない新たな議会 I T 化を進めている。

I T 環境整備としては、議会フロア（議場、委員会室、議員控室）に無線 L A N^[6]を設置し、議員がどの場所からでもインターネットに接続が可能となり、議会共用パソコンを配備した。iPad^[7]（アイパッド）を導入し、パソコン操作を敬遠してきた議員も使用できるよう配慮された。

I T 化によってあらゆる議会フロアで、インターネットの情報を得る事ができるだけでなく、膨大な資料や書類を閲覧できるようになった。また、膨大な資料をデータ化する事により、大量のペーパーレスが実現し、経費削減が図られた。

[1] **twitter(ツイッター)**

140 文字以内の「ツイート」と称される短文をパソコンや携帯電話から投稿し、またそれを登録者同士で閲覧できるインターネット情報サービス。

[2] **USTREM (ユーストリーム)**

インターネットで、無料で利用できる動画共有サービス。さまざまチャンネルネットワークで構成され、動画視聴者との通信機能や、視聴者からの投票機能などがある。

[3] **Google (グーグル) カレンダー**

インターネットを介したスケジュール管理サービスであり、Google サービスの会員同士でスケジュールを共有することができる。

[4] **クラウド**

「雲」の意。データを自分のパソコンや携帯電話ではなく、インターネット上に保存するサービスのこと。外出先のパソコンなどからデータを利用できる。

[5] **ストレージサービス**

インターネット上でデータを保存することができるサービス。

[6] **無線 L A N**

限定的に電波を発し、無線でパソコンをインターネットに接続できる回線。

[7] **iPad (アイパッド)**

アップル社の商標。キーボードが無く、画面を触る事で操作できるコンピュータ。

【ITは目的でなく手段 新井 豪】

なぜ鳥羽市で「議会IT化」が実現したのか？他の地方議会にないアドバンテージはまず、専門家並にITに詳しい職員が在籍している事が挙げられるが、何より、「情報公開」に取り組み、IT化を進めようという市議会議員と職員の高い意識があったからこそという事をまず認識させられた。特に行政職員は何事においても「リスク」を重視しなければならないが、ツイッター、ユーストリームというツールは民間企業で、しかも海外の企業のものであり、利用に関する保障が何一つ無いにも拘らず、「利便性」と「無料」という利点を最重要視して、多少のリスクを背負ってでもそれらを採用したという事が最も驚かされた点である。

また、ユーストリーム（動画共有サイト）を利用するという手段のみならず、議会本会議だけでなく「委員会」も中継している事は特質すべき「情報公開」である。全国でケーブルテレビやインターネットで本会議を中継される事は珍しくないが、市議会の委員会中継は聞いた事がない。国会では本会議より予算委員会の中継が注目されるように、本当に議論らしい議論が行われる「委員会」こそ、視聴者・市民が望む場面であると考えられる。

IT化と同時に、委員会の公開・中継の実現も検討課題の一つとすべきと私は思う。



【新たな議会IT化の推進について 福井 貴代】

三重県志摩半島の東側に位置する鳥羽市は、人口2万2千人。秩父市よりも小さなこの市が今、議会改革の「見える化」で全国から注目されている。「日経グローバル」誌2012年5月21日号の、議会改革度で千葉県の流山市（1位）に次いで、堂々の2位にランクされたという。私達は、「議会の見える化」に果たしたIT化推進の現状を視察した。

鳥羽市議会は、2012年2月に地方議会では全国で初めてツイッターを導入。2012年9月には低コストで運営できるユーストリームによる中継、録画の配信を始め、本会議だけでなく常任委員会、特別委員会も対象にしているという。これは2011年4月施行の議会基本条例で全ての会議を原則公開すると定めたことによる。その結果、議会運営委員会や全員協議会も中継し「見える化」を進めた。今年3月には850万円をかけて本会議場にモニター2台、本会議場と委員会室にカメラ各2台を設けたという。案内された会議室にこれら最新の機器が並んでいて目を見張った。6月議会では市議4人が他市の状況をパソコンでモニターに映して質問をしたとのこと。市議の平均年齢は61.9歳。決して若くはない。議員14人中10人がiPadを持っていて議場に自分のものを持ち込むという。

iPad1台あればメモや写真・ネット検索もできる。資料を事前に端末メールで受け取ればペーパーレス化も可能。本年の6月議会より、久喜市長から議会に端末の持ち込みをとの要望を受け、現在試行的に希望する議員も持ち込んでいる。時代の要求はIT化に向けて進んでいくことは避けられない。遅ればせながら準備を始めなければと思った次第である。

【議会「IT化の推進」鳥羽市の場合 新井重一郎】

鳥羽市議会（三重県鳥羽市）は動画配信等「議会の見える化」についてITの活用を積極的に推進し、議会改革度全国2位にランクされている。今回、秩父市議会運営委員会は、鳥羽市の推進するIT化の目的、その導入の歴史、成果、等をつぶさに視察させて頂き、鳥羽市の目指す将来の方向についての見解も聞くことができた。鳥羽市議会では、ここ5,6年にわたって議会改革の議論が積み重ねられてきた。その第一段階として2010年2月から地方議会としては全国初のツイッターを導入し議会広報をスタートした。次に9月からは低コストで運営できるユーストリームを活用し本会議だけでなく常任委員会、特別委員会も対象に中継・録画の配信を始めた。これを受けて、2011年4月議会基本条例が施行され、議会の「見える化」がさらに進んだ。その中で、すべての会議を原則公開等が明文化された。これにより、議会運営委員会や全員協議会も中継されようになった。現在、更にIT化を進め、クラウドの活用も開始している。市内、光通信回路が開通したことにより、独自に議会専用ネット回線を導入し、議会フロアを無線LAN化した。データをネット上に保存するクラウドの無料サービスの利用により議員の個人パソコンを含めて議会や自宅、外出先でもネットに接続できれば作業ができるようになった。最後に、鳥羽市議会事務局との話しの中で、議案書、予算書、その他印刷物がすべてなくなることはないが、むだを省く観点からも、必要な諸データは各人がクラウドからダウンロードして利用するペイパーレスの方向へ進むだろうというのが鳥羽議会の見解であった。

【新たな議会 IT化の推進 五野上茂次】

今回の視察先の選定は、当初千葉県の流れ山市が議会IT化で全国一位であるため予定したが、先方の都合により鳥羽市に変更になった。

鳥羽市は議会改革度で流山市（1位）に次いで全国（2位）に位置付けられ（日本経済研究所）改革のリーダーシップをとった議会（議員）の目指したものが結果として現れた事と思います。今年3月には本会議場にモニター2台、本会議場と委員会室にカメラ2台を設け、6月議会で市議4人が一搬質問をモニターに映りだして質問した。具体的に実践されるなか議員の間からは、審議と関係のない閲覧やゲームをする恐れがあるとの懸念も示されたが、議員各位のモラルに任せるにいたったとのこと。今迄の議会の議論、議決の結論は議会の広報として議事録公開だけだったので地元のケーブルテレビを通じて録画放送してしたが、加入率が60%前後で全市民に伝えるのは限度がある、そこで目につけたのがインターネット配信だそうとのこと、生放送の視聴者数お見ると現在迄の累計で約25000人で放送以来、1年半で鳥羽市の人口約21500人を超えたことになるとのこと。最後に秩父市議会においてもインターネットの録画放送で無く、本議会、各委員会等を生放送で行うことも検討する必要があるとおもう。

【三重県鳥羽市議会を視察して 江田 治雄】

議会改革の一環で、秩父市議会でもI・T化に向けて検討中であるが、この度の鳥羽市議会の先進的な取り組みを視察した。第一の感想であるが、担当職員の卓越した発想と着眼点に尽きると思う。全国的にI・T化に向けて取り組んでいる議会も多いと思われるが、議会中継を実行する場合、カメラ機材を始めソフトの問題等多額の予算が必要である。この大きな問題を、職員の発想により議会の中継を「インターネット動画共有サービス ユーストリーム」「ツイッター」に載せて発信しているところである。もちろん利用は無料であり、機材等の設備投資は、webカメラ・パソコン・専用ケーブル等で約500万円と非常に安い設備投資で実現をしている。最近フェイスブック・ツイッター・ブログ等で個人的に情報を公開し、パソコンやタブレット端末・スマートフォンでも簡単に見られるので、情報の互換性が高まり広がっている。それにより鳥羽市議会は、たちまちネット中継の先駆者として名を馳せるようにまで有名になった。さらに本会議や一般質問の中継にとどまらず、常任委員会や全員協議会の中継も人気があり、アクセスも伸びていると説明を受けた。しかし、短所はタイムリー中継なので、不穏当発言等そのまま流れてしまうので、後のトラブルになる可能性は充分考えられる。議員は政務調査費を活用し、タブレット端末を導入している。有効的な利用であり、前向きに検討したいものである。

以上のように、長所、短所があるので、慎重に検討する必要があると思う。

「何時でも・何処でも・誰でも・」自由に観られる解りやすい議会を目指そう。

【三重県鳥羽市議会の見える化・IT化 斎藤 捷栄】

秩父市議会においても「開かれた議会」を目指して、様々な取組が行われている。本会議のインターネット録画中継や、先に行われた「議会報告会」などもその取り組みとして挙げられる。これらの取り組みは「議会改革特別委員会」での論議によって進められてきた。

さる6月議会において、議会運営委員会に対して市長から、「議場へのタブレット端末の持ち込みを認めてほしい」旨の申し入れがあった。議会運営委員会では、様々な議論を経て「通話機能を有さない携帯端末の持ち込みを試行的に認める」という結論を得た。今回の視察はその結論に基づいて、議場内への携帯端末の持ち込みが、「開かれた議会」に資するかどうかを先進地に学ぶことを目的として実施されたものである。

鳥羽市議会は、これまで地方議会では全国初のtwitter導入やUSTREAMによるすべての議会のインターネット動画配信、Googleカレンダーでの議会日程のお知らせ等、「議会の見える化」についてITの活用を積極的に推進してきました。(本年1月プレスリリース資料)と述べられている通り「見える化」は進み、議場内にパソコンやタブレット端末を持ち込み一般質問や質疑時にスライドや写真などを議場に設置されたモニターに映し出して説明することができるほか、すべての会議で自席に持ち込み使用可能となっている。

議会におけるtwitterの活用や、インターネット無料配信が可能なUSTREAMによる配信など、私にとってはいずれも「コロンブスの卵」の着想で大変参考になると同時に、自らの頭の硬化に気付かされた。頭をリセットし今後の論議に生かしていきたいと考えている。

【「新たな議会 IT 化の推進」について 浅海 忠】

秩父市議会では、市民により一層の開かれた議会とするべく議会改革を推進していますが今般、「議会の見える化」に取り組み、その成果を上げている鳥羽市議会を視察しました。

概要は、委員長報告のとおりであります。感じたことを何点か述べてみたいと思います。

1. 「インターネットを中心にあらゆる媒体を活用し『議会の見える化』を推進」したこと。ツイッターはホームページと違い、一度フォロー（登録）すると情報を受け取り続けることができ、また転送機能（リツイート）により重要な情報が拡散しやすくホームページに誘導しやすいことから導入。ツイッターの日本代理店に公認申請し開始した。若年層や議会に興味のなかった人に知ってもらえた。8月9日現在のフォロワー（登録者）は1100人超で市民の他、市外・県外の著名人も登録している。

2. 無料のインターネットストリーミング『ユーストリーム』が議会インターネット放送として活用できることを確認し、平成22年9月から実証実験、平成23年5月から本格実施。

3. 効果 市民は、日頃から議会に興味がある訳でないが「自分に関係のあること」などをそのときタイムリーに情報を得られることが重要である。「IT化は維持経費の負担が大きく財政上導入が困難であったが、本システムでは費用対効果が最大の効果である」という。

議員へも資料提供や連絡等に有効に活用できている様子を聞いて、秩父市においても導入を検討し紙ベースの資料を削減していくことで、省資源化にも貢献できるようIT化を推進し、市民の皆さんに『議会の見える化』を実感できるよう推進していきたい。

【鳥羽市議会のIT化推進視察 荒船 功】

鳥羽市といえば、島が点在し、御木本幸吉の真珠島が海女の認識しかなく、人口25,000人弱の市の議会が、「日経グローバル」誌で議会改革度が千葉県流山市について全国2位にランクされたことなど知る由もなかった。

案内された部屋で、板倉議長の挨拶に続いて、北村議事係長から、インターネット動画配信、グーグルカレンダーを使用するの議会日程のお知らせ等「議会の見える化」について積極的にIT化を推進してきた経緯、さらに、ツイッター導入の経緯と効果、市議会議員希望者へ「議員のためのツイッター活用の講座」等について説明を受ける。

また、平成11年度にNTTフレッツ光ネクストが開通したので、新たに議会専用インターネット回線を導入し、議会フロア全体を無線LANにしたとのこと。議員14人中10人がタブレット端末を保有し、一般質問や資料作成に役立っている。

視察を振り返って、よくぞここまで「IT化が推進できた」という感想だ。IT化に疎いのが今後勉強しなければと痛感した。



【鳥羽市議会視察 小櫃 市郎】

これまで鳥羽市は本議会、委員会ともインターネット放送はされておらず、議会放送は平成 21 年 9 月から開始した CATV による本議会の録画放送のみであった。以前からより幅広い層にも本会議や委員会等の審査を視てもらいたいとの要望があった。議会インターネット放送を検討してきたが、他市議会のインターネット放送システム構築実績をみると、初期導入費、維持経費の負担が大きく、財政上導入が困難であった。一方で無料のインターネットストリーミングが議会インターネット放送で活用できるということを事務局で確認し、提案することとした。平成 22 年 7 月の議会活性化検討委員会では、委員が事務局案に賛成。実証実験として実施することが承認された。実施期間は平成 22 年 9 月 9 日から現在、本会議、常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、全員協議、放送内容生放送及び録画放送、本格的には翌年 5 月 1 日から始める。放送検証結果は、開会中の生放送視聴者数及び録画放送は日々増えて、ツイッターとの連携もあってホームページのアクセス件数が大幅に伸びたとのことだった。費用対効果は、初期導入経費 5 万円、ランニングコスト 0 円また、委員会室はウェブカメラを 2 台購入し、PC に USB 接続して映像をマイク設備アンプから直接 PC に音声を取込み、ユーストリームライブブロードキャスターにより配信。操作はすべて事務職員がおこなっている。

秩父市議会でも積極的に IT を活用している鳥羽市議会を参考にし、今後より開かれた議会を目指していかなければならないと考えさせられた視察であった。

【IT 化の推進先進地鳥羽市議会の視察 金田 安生】

議会の情報発信力は行政に比べ大きく遅れている。故にともすれば過激な人達から議会不要論発言がなされるなど、本来の議会の機能を理解しないがための誤った情報等で議員の活動が理解されないなど問題が多い。行政サイドの情報に比べ情報の量や質で見劣りが否めない。そこで正しい情報をタイムリーに市民に発信することにより議会機能の理解を深めてもらうために、情報発信の先進的行動をしている鳥羽市議会を訪ね見識を深めることとなった。新たに IT 化の積極的活用を最低のコスト（市と個人ともに）で効果的に運用していることが解かった。具体的にはソフトバンクが出資運営に関わっている USTREAM という動画サイトと契約し本会議から委員会まで、ほとんどの会議をインターネット配信している。導入にあたっての機材も最低限に抑えている。また USTREAM という動画サイトはパソコンを持ってインターネットが接続できる方なら、誰もが既存の設備でそのまま即受診可能な環境で議会の最新情報が入手できると云う利点がある。鳥羽市議会も個人情報の管理等で悩ましい問題もあるようだが“まずは取り組んで見て、問題があったらその場で考え解決する”と言う前向きな取り組み姿勢が市民に受け入れられて居る。との印象を得た。アクセス数が飛躍的に増加していることは、機会があれば議会にも市民は関心を持っている人が多いということも解かった。“新しいことに挑戦すると云う気概をもって”秩父市も議会改革を進める必要があることを痛感する、大変参考になった視察であった。